



22132274



JAPANESE B – HIGHER LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS B – NIVEAU SUPÉRIEUR – ÉPREUVE 1
JAPONÉS B – NIVEL SUPERIOR – PRUEBA 1

Friday 10 May 2013 (afternoon)
Vendredi 10 mai 2013 (après-midi)
Viernes 10 de mayo de 2013 (tarde)

1 h 30 m

TEXT BOOKLET – INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this booklet until instructed to do so.
- This booklet contains all of the texts required for paper 1.
- Answer the questions in the question and answer booklet provided.

LIVRET DE TEXTES – INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas ce livret avant d'y être autorisé(e).
- Ce livret contient tous les textes nécessaires à l'épreuve 1.
- Répondez à toutes les questions dans le livret de questions et réponses fourni.

CUADERNO DE TEXTOS – INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra este cuaderno hasta que se lo autoricen.
- Este cuaderno contiene todos los textos para la prueba 1.
- Conteste todas las preguntas en el cuaderno de preguntas y respuestas.

Blank page
Page vierge
Página en blanco

問題 A

「ご飯 DE 笑顔」プロジェクト

「ご飯 DE 笑顔」プロジェクトは、全国の高校生が自分の地方の食をテーマに、その地方を笑顔にするアイデアを考えて、実行するプロジェクトです。プロジェクトでやってみたことと、その結果を発表する全国大会もあります。

今年の決勝大会は11月13日に宮城県みやぎで開かれました。去年までは東京で開かれていましたが、「全国に笑顔を」というテーマのもと、東日本大震災だいしんさい ひがいで被害を受けた宮城県みやぎをおとずれることにしました。



今年のプロジェクトの一つをしょうかいしましょう。かながわ神奈川県立相原高等学校の「M:T:C@rrot」です。プロジェクトの目的は伝統野菜の万福寺鮮紅大長にんじんを育て、食べ、伝えることです。このにんじんは1960年代までは多くの農家のうかで作られていました。味もいいのですが、長さが80cmもあるので、最近では忘れられていました。高校生たちのプロジェクトでは、新しいレシピを考えて、試食会を開きました。12月には万福寺鮮紅大長にんじんフェアも開く予定です。

参加する高校生たちのプロジェクトは広く知られ、多くの高校生が食について考えるきっかけになります。参加した高校生たちの熱いパワーが日本中を笑顔で元気にすることを願っています。

参考：<http://www.egao-p.com>

問題 B

若者の失業率、日本でも高い

- ① アメリカやヨーロッパで、政治や経済に不満を持つ若者のデモが広がっています。その理由は若者が なかなか仕事に つけないことだと言われていますが、実は日本でも若者の失業率は全体に比べて高いのです。
- ② 今仕事をしていなくて、仕事を探している人を失業者といいます。家庭の主婦^{しゅふ}でも、学生でも、パートやアルバイトの仕事を探していれば、失業者になります。去年の 10 月、日本全体の失業率は 4.4% でしたが、若い人の失業率はその倍近くでした。
- ③ 失業問題について、中央大学^{ちゅうおう}の大橋先生に聞いてみました。先生は、若い人の失業率が高い理由を、3 つに分けています。
- ④ 「作った商品が どんどん売れるときは、会社は若い人を たくさん やといますが、景気^{けいき}が悪くなって商品が売れなくなると、会社は若い人を やといません。」
- ⑤ 「コンピューターの技術などが進むにつれて、仕事は専門の知識を必要とする難しい仕事と、だれにでもできる仕事の二つに分かれていきます。だれにでもできる仕事は、もらえるお金も安くて、若い人は いやに なって やめてしまいます。」
- ⑥ 「もう一つは自分の希望に こだわる若者が増えたことです。最近の若者は自分の希望している会社でないと、入ろうとしない人が増えています。」
- ⑦ 大橋先生の話によると、若者に心がけてほしいことは、まず できるだけ自分の能力をみがくことと、いったん ついた仕事はやめないで、できるだけ続けることです。

参考：2011 年 12 月 6 日づけ朝日小学生新聞

問題 C

歴史を CG で再現

昔の建物や城、できごとなどを、最新の技術、CG（コンピューターグラフィックス）で再現する研究が進められています。



5

例えば、大津城は今から 420 年ほど前に建てられた城ですが、最近 CG で再現されました。城がどんなすがただったのかは、歴史的な研究からはまだ知られていません。しかし、CG チームは図や専門家の話などから、城のデザインを手がけました。それをもとに、学生が城の CG の動画を作成しました。完成した CG の動画は天津市の琵琶湖汽船のターミナルなどで見ることができます。

10

CG で再現された大津城

また、11月の初めに、奈良県明日香村でおもしろいイベントが行われました。特別なゴーグルをつけて、電気自動車で村を回ります。そのゴーグルをつけてまわりを見ると、昔の建物が目に入り、6世紀ごろから7世紀ごろまでの様子を見ることができます。そこは当時、日本一重要な都市、「飛鳥京」があった所です。そして、その時代の建物や役人の他、「大化の改新」（645年）の始まりとなった蘇我入鹿の暗殺の場面を見ることがもできます。

15



この CG 作りを研究した東京大学の大石先生は「人の動きや建物を立体的に再現することで、歴史をより身近に感じられるようになります。また、図や文だけでは分かりにくい物や動きを立体的に再現すると、当時の様子が手に取るように分かってきます。」と話していました。イベントに参加した白石さんも「タイムスリップしたみたいでおどろきました。東大寺の大仏をつくった時の様子も見てみたいと思います。」と話していました。

20

参考：2011 年 12 月 4 日づけ朝日小学生新聞

「気づいてたの？」

「うん。なんでかなって思ってた」

20
私は、ためいきをついた。彼は、私が見つめていたことを知っていたのだ。そして、そこには、初恋はつこいとか、そのようなあまい気持がまじっていないことにも気づいていたのだ。私は、なんだか味方をえたような気分になり、気持が楽になるのを感じた。どうやら、彼は物事を正確せいかくに見つめることの出来る人のようなのだ。

「実はねえ…」

25
私は、初めて彼の瞳ひとみに出会った時から、ずっと心の中にすんでいる疑問について話し始めた。彼は、興味深きょうみそうに、私の話を聞いていたが、くびをかしげるばかりだった。

「でも、おれ、東京に引っこして来たばっかだし、きみと会ったことなんてないはずだよ」

「うん。それは解ってるんだけど、絶対に見覚えあるのよね、相沢君あいざわの目に」

「ふうん。ま、いいか」

そう言ったきり、幹生みきおは、再びだまって歩き続けた。

ひよこの眼^め

山田詠美^{えいみ}

一九九四

「帰ろう。きみんち吉祥寺^{きちじょうじ}でしょ。おれも中央線^{ちゆうおうせん}だから。」

私は、おどろきのあまり、彼を見上げているだけだった。幹生^{みきお}が直接、私に話しかけたのは初めてのことだったのだ。しかも、皆が見つめている途中で。

5 私は、うなずいて、のろのろと立ち上がって帰り支度^{じたく}を始めた。どうにでもなれという気分だった。どうせ、このまま、私がすねていたとしても、うわさが消えることなどないのだ。私と幹生^{みきお}は二人で教室を出た。すげえとか、やるなあとか、男子生徒たちの感嘆^{かんとん}のこえが、私たちの背後^{はせいご}からおいかけて来た。

10 私と幹生^{みきお}は、しばらく無言で歩いていった。私は、男子生徒と連れだって歩くことなど初めてで、どぎまぎしていたが、彼に自分の気持を伝えておかなくてはと思い、ようやく口を開いた。

「あの、私、皆が言うようなこと、思っていないの。どうして、あんなうわさが出たのか、解らないけど…」

幹生^{みきお}は、ちらりと私を横目で見て笑った。

「知ってるよ。でも、きみ、いつも、おれのこと見てたでしょう」

15 私は、自分のほほにちがのぼるのを感じた。

問題 E

みんなのライバル「東ロボくん」

数ある日本の大学の中で、入学試験の合格が一番難しいとされているのが、東京大学（東大）です。今日は、東大受験のとき、ライバルになるかもしれない存在をしょうかいします。

実は、それは、ロボットなのです。正確せいかくにいうと、ロボットにとうさいする「人工知能」です。正式な名前は決まっていますが、「東ロボくん」とよばれています。

人工知能というのは、物を覚えたり、判断したりする人間のような知能を持つコンピュータシステムのことです。この東ロボくんを東京大学に合格させようというプロジェクトを、国立情報学研究所が始めています。

東ロボくんはコンピューターなので、暗記とくいはもちろん得意です。教科書や過去の問題などは、すぐに覚えられます。また、暗記の他に、計算のように、手順てじゆんが決まっていることも上手です。どんなに複雑ふくざつな手順てじゆんでも、東ロボくんにとって苦になりません。

でも、東ロボくんは「だいたい こうだろう」と考える、「だいたい」の感覚がありません。例えば、19世紀せいきのイギリスの歴史の話ですが、

- ① コブデン、ブライトらは穀物法こくもつに対して反対運動を起こした。
- ② コブデン、ブライトらは穀物法こくもつの廃止はいしを要求した。

皆さんは、人物の名前こくもつや穀物法は何か知らなくても、上の二つの文がだいたい同じ意味だと分かるでしょう。でも、東ロボくんは「だいたい」がないので、上の二つの文がにていることが分かりません。

「だいたい」の感じきょうゆうを共有することは、人間と人工知能のとうさいするロボットが いっしょに生活するような時代を考えると、大切になってきます。言葉でロボットに話そうと思っても、人間はそんなに正確せいかくなことを言いません。ロボットが「あいまいな言葉」を理解できるように ならなくては、本当の人間と いっしょに くらしていくのは、難しいでしょう。

参考：2011年12月6日づけ朝日小学生新聞